

平成24年度沖縄群島病虫害発生予報第9号(12月予報)

I 12月の気象予報

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	20	40	20
平年並	30	40	40
低い(少ない)	50	20	40

(平成24年11月23日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
沖縄群島(那覇)	18.7	21.2	16.3	102.8	115.6

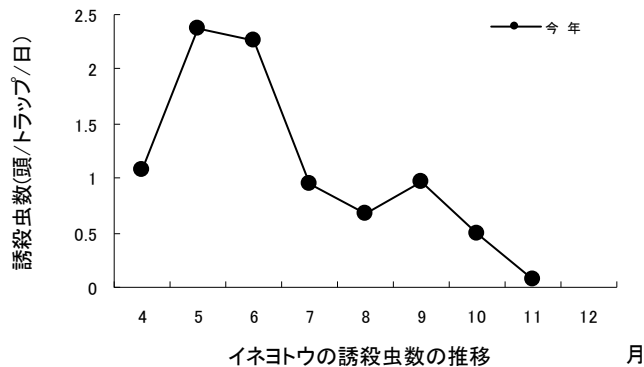
(沖縄気象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

II 12月の発生予報および防除上の注意事項

1 さとうきび

○ イネヨトウの防除対策

- a 11月下旬の調査の結果、新植夏植圃場における芯枯茎率は0.7%(前年5.2%)であった。
- b 11月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は0.1頭であった。
- c 与那国島において、イネヨトウの被害が多発した際の誘殺虫数は2頭以上であった。



<防除上注意すべき事項>

- a ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- b 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
- c 圃場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- d 培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- e 平成24年度病虫害発生予察技術情報第1号参照(平成24年4月5日付)。

- 野その防除対策
 - a 11月下旬の調査の結果、被害茎率は1.1%（前年0.1%、平年0.1%未満）と平年より高かった。また、一部圃場では集中的な被害がみられた。
 - b 度重なる台風の襲来によりさとうきびの倒伏が激しくなっており、野そが好む環境となっていることから、圃場管理に努める。
 - c 畜舎や野そが水飲み場として利用する用水路等の周囲の圃場での被害が多い傾向にあるので、それらの場所では重点的に防除を行う。

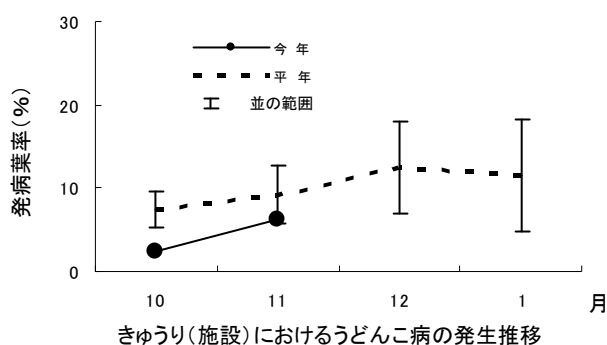
2 マンゴー

- 花芽分化期の病虫害防除対策
 - a 11月下旬の調査の結果、かいよう病およびチャノキイロアザミウマ、ハダニ類などの発生がみられた。
 - b チャノキイロアザミウマやハダニ類、カイガラムシ類の動向に注意し、防除を徹底する。
 - c チャノキイロアザミウマの寄主植物となる施設内外の雑草を除去する。
 - d 炭疽病、軸腐病及びかいよう病対策のため予防散布を行う。また、残渣物は速やかに施設外に持ち出し処分する。
 - e 現在発生している不要な新梢は、病虫害の発生源となることから、ビニール袋等に入れ圃場外に持ち出し処分する。

3 きゅうり(施設)

- (1) うどんこ病
 - 発生程度 : 並
 - 予報の根拠

11月下旬の調査の結果、発病葉率は6.3%（前年10.0%、平年9.2%）と平年並であった。



<防除上注意すべき事項>

老葉や病葉は発生源となるので、圃場内に放置せず、ビニール袋等に入れるなどして持ち出し処分し、透光通風を良くする。

- 黄化えそ病の防除対策
 - a 11月下旬の調査の結果、一部の施設で発生が多くみられた。
 - b 着果前の発病株は、見つけ次第抜き取り処分する。
 - c 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を徹底する。
 - d 施設内外の雑草は、ミナミキイロアザミウマの発生源となるので、除草に努める。

4 にがうり(施設)

- モザイク病の防除対策
 - a 11月下旬の調査の結果、すべての施設で発生がみられた。
 - b 着果前の発病株は、見つけ次第抜き取り処分する。
 - c 媒介虫であるアブラムシ類の防除を徹底する。
 - d 施設内外の雑草は、アブラムシ類の発生源となるので、除草に努める。

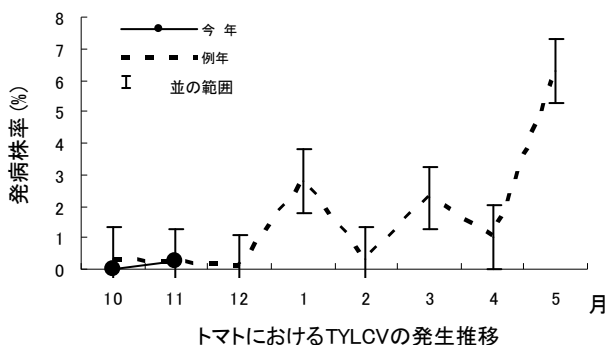
5 ピーマン

- チャノホコリダニの防除対策
 - a 11月下旬の調査の結果、一部の施設で発生が多くみられた。
 - b 芯葉部や果実のへたなど薬剤がかかりにくい場所に寄生するので、むらのないよう丁寧に散布する。

6 トマト

- (1) トマト黄化葉巻病
発生程度：並
予報の根拠

11月下旬の調査の結果、発病株率は0.3%（前年0%、例年0.3%）と例年並だった。



<防除上注意すべき事項>

- a 発病株は感染源となるため、早急に抜き取る。抜き取った株は必ずビニール袋に入れるなどして密封し、圃場外へ持ち出し処分する。
- b 施設内外の野良生えトマトは、本病の感染源および媒介虫であるタバコナジラミの発生源となるので、抜き取り密封処分する。
- c 黄色粘着テープ等により、タバコナジラミの早期発見・早期防除に努める。
- d タバコナジラミの薬剤防除を行う場合は、マルハナバチに影響の少ない薬剤を選定する。

7 小ぎく(年末出荷用)

- 白さび病の防除対策
 - a 例年春から初夏に発生が増えるが、前年度は11月中旬に購入苗栽培圃場で発生した。
 - b 多湿条件下で発生するので、不要な下葉、脇芽は除去し、通風をよくする。
 - c 発病葉は除去し、ビニール袋に入れるなどして圃場外に持ち出し、焼却などの処分を行う。
 - d 発生時期には予防散布を行うとともに、葉をよく観察し初期発生を見逃さない。
 - e 防除効果を高めるため、薬剤耐性菌が発現しないようローテーション散布を行う。
 - f 栽培終了後は近隣圃場や次作の発生源にならないよう、不要な株は速やかに処分する。